

授業科目名	オリンピック／パラリンピックの理念と歴史	単位数	2
担当教員名	杉山 正明	担当形態	単独
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志をもつこと。 ・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自立的な課題探究能力を身に付けていること。 			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 近代オリンピック・パラリンピック競技大会の理念について歴史的事実を踏まえて理解する。 (2) 今まで実施されてきたオリンピック・パラリンピック競技大会のエピソードから、スポーツの持つ価値を見出すことができる。 (3) スポーツを通じた共生社会のあり方について意見を持つことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>クーベルタンが近代オリンピック大会を復興したきっかけおよびその理念は「オリンピズム」といわれています。その理念は今なお受け継がれて私たちにスポーツの素晴らしさを与えています。また、パラリンピック大会の誕生の背景や大会の変遷を検証していくと、時代とともにスポーツそのものの在り方の変化が感じられます。オリンピック・パラリンピック競技大会のエピソード等を振り返りながら、その理念を理解し、スポーツの持つ価値やスポーツを通じた共生社会のあり方について印刷教材や視聴覚教材をもとに学びます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：古代オリンピックの変遷</p> <p>第2回：クーベルタンと近代オリンピック復興</p> <p>第3回：オリンピック憲章とオリンピック・ムーブメント</p> <p>第4回：オリンピズムとフェアプレー</p> <p>第5回：聖火リレーの起源</p> <p>第6回：嘉納治五郎と日本のオリンピック大会</p> <p>第7回：幻の東京オリンピックと1964東京オリンピック</p> <p>第8回：オリンピックレガシー</p> <p>第9回：オリンピックと経済</p> <p>第10回：オリンピックと環境</p> <p>第11回：オリンピックの光と影</p> <p>第12回：パラリンピックの歴史とその意義</p> <p>第13回：パラリンピックの種目と用具の進化</p> <p>第14回：パラリンピックがもたらすスポーツ社会への影響</p> <p>第15回：スポーツを通じた共生社会のあり方</p>			

定期試験

スクーリングでの学修内容

当日配布する資料や映像をもとに近代オリンピックならびにパラリンピック競技大会の歴史的変遷について具体的事例やエピソードを学びながら、スポーツの本質やスポーツの多様な楽しみ方と関連付けてスポーツの良さや人間にとっての価値並びにスポーツを通じた共生社会のあり方について考察していく。

(すべての内容を包括的に触れるが、主に第2回から8回および第11回から15回の内容を含む。)

テキスト

『これならわかる オリンピックの歴史 Q&A』 大月書店

参考書・参考資料等

- (1) ローラント・ナウル著『オリンピック教育』大修館書店 2016年
ISBNコード978-4-469-26796-9
- (2) 講談社編『文学者の見た世紀の祭典 東京オリンピック』講談社 2014年
ISBNコード978-4-06-290217-5
- (3) 日本オリンピック・アカデミー編『ポケット版オリンピック事典』株式会社 楽 2008年
ISBNコード978-4-947646-25-5

学生に対する評価

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する。